

Title	新薬プロジェクトの価値予測モデルによるRD戦略の考察
Sub Title	
Author	柴原 亘(Shibahara, Wataru) 青井 倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1344号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1344

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新薬プロジェクトの価値予測モデルによるR&D戦略の考察

日本の製薬企業は欧米企業と比較して少ない研究開発費を効率的に使用して、研究開発を行わなければならない。このためには、研究開発資源を特定のプロジェクトに集中する必要がある、経営者は研究開発戦略を策定するにあたって、各プロジェクトを評価し、序列をつけ、プロジェクトを決定しなければならない。

本研究では、経営者が合理的な意思決定を行うために必要な新薬の研究開発プロジェクトを評価する方法について検討した。さらに、検討・作成した予測モデルを用いて、「改良型新薬」から「ブレイク・スルー型新薬」への研究開発戦略の転換が求められている日本の製薬企業にとって、どのような戦略上の変革が必要なのかを検討し、求められている変革を提言することが目的である。

今回の検討では、医薬品の研究開発における不確実性を「研究開発の成功確率」と「成功した場合の事業価値」に分類し、これらの積から「新薬プロジェクトの価値」を求める評価モデルを作成した。さらに、「成功した場合の事業価値」を求めるモデルでは、予測値を確定値ではなく、ある分散を持った値として扱い、事業価値の分散をモンテカルロシミュレーションを用いて検討し、さらに予測値の分散が事業価値に与える影響も検討できるようにした。

本モデルを用いた検討から、日本の製薬企業が「改良型新薬」から「ブレイク・スルー型新薬」へ開発戦略を変換するのであれば、研究開発の成功確率が低くなるだけでなく、研究開発プロジェクトの価値の分散が大きくなることに対して注意を払う必要があることが明らかになった。新薬プロジェクトの価値に影響を与える項目は、「改良型新薬」では市場の状況を見極めることが必要な項目が大きな影響を与えていたが、「ブレイク・スルー型新薬」ではより開発スピードが求められていた。